Stories of rising crime in Japan abound, so there was no reason I should think Shiraishi Island would be exempt. So when my brand new mountain bike was stolen, I wasn't exactly surprised. It was more a question of who took it and why the hell they thought they'd get away with it.

It happened one morning in midweek when I was awakened at 5:30 a.m. by 75-year-old Rikimatsu-san yelling from the dock outside my house.

"Amy-san! Are you awake?" he yelled. "Let's go

I ran downstairs and opened the living room window that faces the port. "Fishing? Now?"

He looked at his watch. "OK, I'll give you 15 minutes. Meet me on the other side of the port."

I changed clothes, stuffed a piece of bread in my

mouth, rode to the other side of the port where Rikimatsu-san's boat was tied up, parked my bicycle and went fishing.

For the next two hours we caught "mama kari" by the dozen with a 12-hook fishing line.

Then Rikimatsu-san added another length of line to add 12 more hooks, and I was catching twice as many fish each time I dropped the line in the water. With the extra weight of the fish, I had to steady the pole against my

stomach to reel them in. This week's menu was looking good: fried fish, fish marinated in vinegar and mama kari sushi.

When we came back, the old man dropped me off at the dock in front of my house with a bucket of fish, then went and tied his boat up. This is when I realized my bicycle was missing. I looked everywhere but couldn't find it. Well, it finally happened — crime had come to our small island in the middle of the Inland Sea. And I was going to find the perpetrator and wring his neck.

I got on my scooter and went searching for my bicycle. It was nowhere near my house. I looked up and down the port — nothing. I was determined to find it, so I looked everywhere. And I finally found it — on the other side of the port. This is when I realized who had stolen my bicycle: me.

※この文章は意訳している箇所があります。

日本の犯罪件数は増加の一途をたどっている。だから、私は白石島が例外であるとはちっとも思っていなかったし、私の新品のマウンテンバイクが盗まれたときも、それほど驚くことはなかった。それより、誰が盗んだのか、そしてどうして逃げられると思ったのか、そんな思いの方が大きかった。

その事件は、平日の朝5時半に起こされたことから 始まった。

始まった。 私は、突然、家の外の突堤から叫ぶ75歳のリキマツ さんに起こされた。「エイミーさん!起きてるかい。」 と彼は叫び、「魚釣りに行くよ!」と続けた。

私は1階に駆け下り、港側に面する居間の窓を開け、 「魚釣りに?これから?」と聞いた。

すると彼は自分の腕時計を見て、「オーケー、15分 待ってあげるから、反対側の港で待ってるよ。」と叫 んだ。

私は、着替えて、小さなパンを口にほうり込み、リ

キマツさんの船が泊めてある反対側の港まで自転車で向かい、 そこへ止めて魚釣りに出かけて 行った。

それから2時間ほど、最初は12個の針がついた釣り糸を使をかりって1ダースの「ままかり」さんがもう12本の針を付け足すために、釣り糸も長くした。それたびにがの身までの倍の魚をとることさもになり、たぐり寄せるときなり、たぐりかいたがり寄せるときなり、たぐりかいたがあります。

ぐらつかないようにしっかりとお腹に力を入れた。今 週の食卓にあがったメニューは豪勢で、フライとマリ ネと、ままかり寿司だった。

帰りは、私の家の前で魚の入ったバケツと一緒に船から降ろしてくれ、彼は自分の船を縛りに行ってしまった。その瞬間、私は自転車がないことに気づいた。いろんな所を見て回ったが見つからない。アララァ、ついにこの瀬戸内海に浮かぶ小さな島でも犯罪が起こってしまった。私は何が何でも犯人を見つけ、やつの息の根を止めてやるつもりだった。

私はスクーターに乗り自転車探しに行った。家の周りや港の上や下の方を探して回ったが見つからない。 私は絶対に見つけてやるんだと堅く決心し島中を探し回った。そして、ついに私は見つけた…反対側の港で。 そして誰が犯人か気づいた瞬間でもあった。

そう、何を隠そう、私以外の何者でもなかった。



、よろしくお願いします。市民の皆さんには、ご不便をおかけします。転し、4月18日側から業務を開始します。一般局も、中央公民館1階から本庁舎1階へきらに、監査委員事務局と選挙管理委員会

ラザへ移転し、4月25日川から業務を開始し 東務局体制を「国体推進課」に強化し、事務 を出ます。業務開始は4月1日(金からです。 をいます。業務開始は4月1日(金からです。 をいます。業務開始は4月1日(金からです。 をいます。業務開始は4月1日(金からです。 をと半年となりました。それに伴い、4月から と半年となりました。それに伴い、4月から といよいよ「晴れの国おかやま国体」まであ

## 移転します国体推進室などが